

2004-8-1

# 混沌とした中から

創刊号

発行責任者 稲崎義明

## 「混沌とした中から」新創刊にあたって

なんだか、H. P. Reportを休刊にしてすぐに次のを創刊するというのもどうかとも思ったのですが、内容のイメージがわいたので創刊することにします。といつても以前とどう変わるかというと難しいところですが、できるだけ色を出していきたいと思っています。

で、まずメールマガジンの名称ですが、「混沌とした中から」としました。なんだか似つかないようにも思えるのですが、いろいろな意味を持たせたつもりです。それとご存知なかたは思いついたでしょうが、確かに「日経バイト」に「混沌の館にて」という連載がありますが、別にそこからとったわけではありません(本当か?)。ただ、コンピュータ、IT業界もその進み方があまりにも早く、なかなか先が見えなくなっているのも本当のような気がします。いろいろなものが便利にはなってきていますが、本当にそれがよいことなのかは、どうなのでしょうか。疑問を投げかけてもいいのではないかでしょうか。なんだか誰かの疑惑に従って進められているような気がしたりします。それと、これまでほめられるようなことが禁止されたり(たとえば会社の仕事を家に持ち帰ってするようなことは、情報の管理、保護の観点からは禁止されるべきことになってきました)、全体の動きがわかったものがまるでBlackBox化したりしています。そういう意味で先が見えないということで「混沌とした中から」という誌名としました。

次に構成ですが、特集と情報誌の内容という二部構成はそのままです。ただし、特集は、これまで「陸支コ課情報」のとき以外は1ページにまとめるという制限をかけていましたが、これからは、2ページになるか半ページで終わるかはその時の内容によるということになります。もちろん連載は基本として行いますので、数ページにわたって一気に1つの項目を一回で書き切ってしまうということはしません。それでお願いなのですが、近頃書く内容の題材に困っています。休刊直前の「スパイウェア」などの要望に答えることもあるのですが、なかなか要望をいただけないのでこれからはよろしくお願ひします。また、情報誌についてですが、これまで初めから情報誌については、そのときに購入した情報誌の内容で興味のあるものをピックアップして、ちょっとだけその内容を紹介する方法をとっていましたが、今後からは、そのときに購入した情報誌の内容を少しずつ紹介することをやめ、最も興味のありそうな内容について、もう少し内容がわかるように紹介するようにします。つまり、これまでにはこんなことが記事として載っています、紹介されていますといった表面だけの内容だったものを、その内容はどのようなものかを具体的に選んで紹介するもので、これまでには情報誌を購入しないとわからなかったものが、もっと解かりやすく説明できればと考えています。そのため、あまりたいした記事がなければコーナー自体が無いといった可能性もあります。

では、新創刊をスタートします。今回はこの創刊の挨拶が特集の代わりです。やっぱり1ページになってしまいました(努力して合わせていますが)。また、4年2ヶ月のスタートですが、今後ともよろしくお願ひします。少しでも違ったもの、より解かりやすく、資料になるような文面の作成に努力(個人の技量には限界がありますのでその点ご了承ください)していこうと思っています。また、参加したい方、資料の投稿については随時受け付けていますので、よろしくお願ひします。それと、発行は前回と同様に月2回の発行です。ではよろしく。

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 7月19日号

特集 ルールの鬼

→整理整頓は机の上ばかりではない。メールの受信トレイの中身が整理されないで、“ごみ溜め”になっているのではないか。ではメールをどう整理すればいいか。まず、要返事のものにはフラグを立てる。それもソフトによっては色が使い分けられる。次には、用件ごとにフォルダを作つてその中で整理する。また、懸命に特定のもの（たとえばアンケートなど）があるものは自動に整理することもできる。フラグ、フォルダ、色分け、自動選別機能などメールの整理整頓方法を紹介してあるが、思い当たる人は自分のメールソフトを調べて整理してみてはどうだろうか。

○N+I NETWORK 9月号

特集 検疫ネットワーク

→エンドポイントのセキュリティ対策として、不適格PCの企業ネットワークへの接続を、水際で食い止める「決定打」として注目を浴びているのが「検疫ネットワーク」。その方式には、「DHCP」「認証スイッチ」「パーソナルファイアウォール+認証」「IEEE802.1x」の4種類が代表的なもの。DHCP方式は、IPアドレスをクライアントに分け与える際に、クライアントの接続認証を行う環境を示すもので、期間ネットワークとは別に検疫ネットワークを構成する形態となる。認証スイッチ方式は、通常の様にL2スイッチの下に島HUBが接続された場合でも、PCを接続しようとするとまず検疫ネットワークにのみ接続が許可され、セキュリティチェックを行った後で社内ネットワークに入れるようとする。パーソナルファイアウォール+認証の場合は、それぞれのPCにパーソナルファイアウォールを導入し、組織レベルで管理することによって、不適格やパーソナルファイアウォールの導入されていないPCを排除する。IEEE802.1xは、レイヤ2レベルでポート利用の適否を判断するもので、標準規格であることもあり、今後の普及が見込まれる。

○NETWORK WORLD 9月号

特集 ルーティングの基礎固め

→IPアドレスを指定すれば相手につながってしまうのが当たり前の環境。ではどのようにつながってるかのルーティングの基礎。ルーティングはパケットにあるIPアドレスをあて先として、受け取ったルータが次に接続するルータを探して相手に接続するもので、自分で判断するためにルータはルーティングテーブルを持っている。では、このテーブルにないIPアドレスであった場合に接続するものとしてデフォルトゲートウェイがある。また、IPアドレスは24ビットのネットワークアドレスと、8ビットのホストアドレスで構成された32ビットのデータで、LANのセグメントごとにネットワークアドレスを割り当て、その下に接続されたものを干すとアドレスで認識している。また、ルーティングプロトコルとして、小規模ネットワークにてはしたRIPと大規模ネットワークに適したOSPFなどがある。

○日経システム構築 8月号

特集 システム投資の死角

→Webサイトは現在ビジネスに必須といつても過言ではない。確かに、企業活動に深く結びついているが、その費用対効果をどう計測するかはなおざりになっているのではないか。それでなくとも費用削減が求められているなかで、どう可視化するか。そのためには、まず指標を作る方法がある。たとえば売り上げ直結の指標を設定して継続的に測定するなど。もちろん指標を柔軟に変更することも必要ではあるが。次にその指標を検証し、検証結果をシステムに反映させるなど柔軟なシステム作りが肝要となる。